

第5期横浜市子ども・子育て会議 第5回保育・教育部会 公開議事会議録		
日 時	令和3年10月28日(木) 18時45分～19時45分	
開催場所	市役所18階 みなと6・7会議室	
出席者	山瀬副部長、中丸委員、大澤委員、尾木委員、荻込委員、天明委員、森委員、大庭委員、新堀委員	
欠席者	石井部長	
開催形態	公開	
議 題	【子ども・子育て会議】 議事1 横浜市子ども・子育て支援事業計画における保育・教育に関する「量の見込み」の中間見直しについて	
議 事	山瀬副部長	<p>続いて議事(1)「横浜市子ども・子育て支援事業計画における保育・教育に関する「量の見込み」の中間見直し」について、事務局から説明をお願いします。</p>
	事務局	<p>議事「横浜市子ども・子育て支援事業計画における保育・教育に関する「量の見込み」の中間見直し」について説明。</p>
	山瀬副部長	<p>それではただいまの事務局の説明について質問や意見がございましたらお願いします。</p>
	天明委員	<p>内容としては正しいので案に対しての疑義は無いが、就学前児童数が減ることについて、内容のインパクトが強いため、別途市民に知らせる手当が必要に思う。</p>
	事務局	<p>今後12月から来年にかけて計画が決まっていく中でお示しする段階となるが、場合によって、毎年5～6月にかけて地域児童数を発表するタイミングや、その他も時期を見計らって、計画の見直しによって数値が減っていることを周知していこうと考えている。</p>
	天明委員	<p>子ども・子育て支援事業計画は数に終始するところがある。質の部分に触れないこともあって、現実的な所が市民にとって見えづらいのがネック。事務的に出された整備数等の数は真っ当だが、市民が見たときに大きな転換を迎えようとしているグラフに見えてしまうので、何かしら手を打った方がよいと感じる。</p>
	事務局	<p>元々、整備と併せて質の確保も両輪で取り組んできた。引き続き、質の向上もしっかり取り組んでいることが分かるよう、公表の仕方を工夫していく。</p>
	天明委員	<p>現在教育現場でも保育人材を多く育成しているが、このペースで子どもが減っていくと、将来の保育士の必要数にも影響してくると思う。今の学生が今後保育士という職業選択をする時のためにも、市民への分かりやすい説明はしてほしい。</p>

	<p>大庭委員</p> <p>事務局</p>	<p>これまでは、出生率が下がっていても人口の流入で現状維持か、もしくは増える見込みだったかと思うが、どのあたりが予想と変わってきているのか。1・2歳児のところの令和3年度、2年度、流入に関してはどの数字で読み取れるのか。出生率はもう1,200人ずつぐらい減っているように見えるが。</p> <p>増減率は同じものを掛けており、当初から変わっていない。そこまでの分析はできていないが、特に0歳児が減っていることの影響が大きいと思われる。</p> <p>横浜市の人口動態で数値を見ると、令和2年の出生数は2万5,720人、実際亡くなっている方が3万3,923人のため、横浜市全体でいうと自然増加はマイナス8,203人、人口としては減っている状況。また出生は令和元年と比べると674人減っている状況がある。</p> <p>市外からの転入の状況については、市外転入の数が14万2,051人、転出が12万7,562人で、差引き1万4,489人が、転入超過となっている。人口がまだ流入してきているが、令和元年と比べると1,788人減っている状況。そのため、転入は超過だが、少なくとも前年と比べると減っている状況がある。</p> <p>年齢別で見た人口移動で考えると、0から14という幅になってしまうが、転入の超過は429人。横浜市に入ってきた0歳から14歳は、ある意味、429人にしかいないということになる。このため、考え方としては出生数が伸びないというより、もう減っていく状況が明確に出ており、それが今回の見直しにつながっている。</p>
	<p>大庭委員</p> <p>事務局</p>	<p>本来であれば、定員割れで今空いている人数も、本当はここに組み込まないといけないのではないかと。そういう計算にはならないか。</p> <p>あくまでも今回出している数値については使いたいという方の人数。次の整備のところでは、場合によって定員割れのところが出てくるかと思う。</p>
	<p>森委員</p> <p>事務局</p>	<p>コロナ禍において、出産を控えた方は実際にいるのか。去年一年ほど様子を見ていた方で今年になって出産するようになった方の声も聞く。大きな影響はないものと考えてよいか。</p> <p>厳密な数字は出せないが、全体としては減っている傾向があっても、今年だけ大幅に減少した等、如実にコロナ禍の影響で出産しなかったということはない。ずっと減っている。</p>
	<p>森委員</p>	<p>子どもの数は本当に年々減っているが、障害児の数は年々増えている。減り方が出生率と比例していない。現実に療育センターの初診も年々増えており、こうした見込みの数の中には出てこないと思うが、手のかかる子は確実に増えていて、障害があるからといって保護者が働かない訳ではないため、そういうところも考慮していただきたい。</p>

事務局		<p>実際にそういう方達の申請が一定数あり、園が限られていて、入りにくいというところは承知している。そこも含めて対応は検討していきたい。</p>
森委員		<p>特に2歳、3歳で診断が下る子に関しては、0歳のときのニーズ調査では数としては出てこないと思うので、よろしくお願いします。</p>
大庭委員		<p>こういう計算をするときは同じ比率で減っていかず、減っているパーセンテージがまた更に次の年に加算されるので、予想としてはもっと減っていくということだと思いますが。</p>
事務局		<p>この人口推計は、横浜市政策局の国勢調査を基にしているもので、ぴったりの数値になるのは難しいところがある。例えば、1期計画の見直しをしたときには、人口の減り方が当初の想定より減らず、整備数を上げたという経緯があった。今回は人口推計が実態よりも低かったという形で数が少なくなっているが、そうした中で推計どおりにいかないところがあるので、中間見直しで少し数の補正をし、より現実に合った対応を取らせていただきたい。</p>
山瀬委員		<p>増加している区の増加分で増えてくる一方で、減少していく区があって、831がマイナスになっているところが、先ほどのお話で、この数と増えていくニーズの方を今回は考えるということだったと思うが、減っていつている区で定員を割っている園が多くなる中で、831を単純に割ると、園数でいくと結構な数になる。</p> <p>どんな規模で見るとにもよるが、結構な人数になったときに、この先の話で、今回はニーズの調査で1,290とか数あるニーズをちゃんと満たせる確保をしていくという話だったが、並行して、天明委員がおっしゃったような質の話や、定員を割っていく保育の現場に対するサポート・支えていく仕組み、あるいは単純にニーズがなくなったから終わりというような形ではなく、しっかりとサポートをしていけるような何らかの仕組みが今後望まれると感じた。</p> <p>そこが見えずにこの数字だけがひとり歩きしてしまうと、横浜って保育所が利用できるのかなとか、良質の教育をちゃんと受けられるのかなという保護者の不安や、保育の仕事をしたいと思っている人たちの夢や思いにつながらないのではないかと思いますので、この先議論を重ねていく必要があると思いました。感想程度となりますが。</p> <p>そのほかよろしいでしょうか。</p> <p>それでは、委員の皆様にお伺いさせていただきます。当部会の意見としては、事務局の示したとおり認めるとしてよろしいでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">(異議なし)</p>

	山瀬副部長	ありがとうございます。続きまして、次第の3、その他ですが、事務局から何かございますか。
	事務局	特にございません。
	山瀬副部長	それでは、今回の議事を含めて全体を通して委員の皆様から何かございますか。
	天明委員	今回、公開案件ということで御連絡いただいて、市民の方々に開放されているのはいいが、この会議について傍聴の申込みはいつからになっていましたか。
	事務局	会議の始まる2週間か1週間ぐらい前に公表をしてという状況です。
	天明委員	そうですか、ありがとうございます。今回の日にちは承知していたのですが、そこで何が話されるかということについて、把握しきれていませんでした。子ども・子育て会議について話すのは分かっていたのですけれども、公開案件だということを忘れており、御案内をいただいてから、メンバーに知らせようと思ったところ、連絡いただいたのが25日で締切りも25日だったもので、帰ってから知らせようと思ったら間に合わなかった。委員にも傍聴を開始しましたというタイミングか何かでお知らせいただくと、これは開かれますよというのが言いやすいので、会議をこの日にやりますという案内は丁寧にいただいてありがたいんですけども、傍聴申込みが始まっていますというお知らせもいただけると助かります。
	事務局	承知しました。次回から傍聴を開始したときの御案内も併せて御連絡するようにいたします。
	大庭委員	<p>この件とはまた別ですけども、森委員がおっしゃった障害の件で。今、保育所の入所があつて、蓋を開けてみますと、4月の時点で要配慮のお子さんや、障害のあるお子さんがいきなり入所してきて、結局、保育士の負担が増してしまつて、それで保育士が離職するということが今年非常に増えました。</p> <p>確かに行つて確認してみますと、当然1対1であろうというお子さんが相談なく入所してくるという状況があつて、これはそのお子さんにとつても不幸ですし、保育士にとってはとてつもない労働力になってしまいますので、いろいろな園から苦情というか報告が来ております。ぜひその点を、今回の件とは関係ないんですけども、少し市のほうでもリサーチしていただいて、本来であれば、やはり障害のあるお子様が入所する場合は、市のほうで少なくとも保育士の手配なりしていただかないと、もう簡単に見つかるような状況ではございませんので。その期間に限つてとか3対1とか言われても、3対1という手はないので、やはり人を1人雇用しないと、園の負担が非常に大きく</p>

		<p>なってしまうので、その見直しをぜひしていただきたいというのを、この場をお借りして、違う議題でございますけれども、よろしくお願いたします。</p>
	森委員	<p>実際に入れなくなってしまうので、親の立場で黙って入所させてしまうことがあるというのはやはり否定しません。そうしてしまうと本当に子どもがづらいからというのは言っているのですけれども、幼稚園にしても、3歳で入ってしまった子が後になってグレーだと分かったから4歳、5歳の枠がなくなってしまうとか、それが本当なのかどうか分からないですけれども、とにかく入れなきゃと親としては思ってしまうので。</p>
	大庭委員	<p>実際に診断が下りたときに、保育園なり何なりに入れようといったときの親への寄り添いとかも、それを保育士さんにとというのは難しいなというふうにも育ててきた家庭では思っていると思います。でも、今、療育センターも初診待ちが半年とかが当たり前なので、いろいろと療育センターのほうも、面談を入れるとか、初診にかかるまで、診断が下るまで丁寧に対応するということはやってくさってはいるのですけれども、ちょっとその辺の心理状態が、親の負担もある中で、保育園が見つかったらそっちにもお願いしたいというのは親の心情としては当然のことです。その辺も本当に丁寧に対応をお願いしますとしかお伝えようがないのですが、御理解いただければと思います。</p>
	森委員	<p>本当に保育園側としては、事前に分かってしっかり手配できれば、もう先生たちは本当に受け入れますよと、全員そういう気持ちです。ただ、やっぱり手が足りないとどうしようもないです。</p>
	森委員	<p>どれだけ手がかかるかというのは、親としてはもう実感していますので、それをほかの子と同じように入れるのは絶対に無理があるよと言っているのですけれども、2歳とかのときに、ほかの子と違うと言われるショックも親としても大きくて、いやいやそんなことないよねと、目をつむって入れたくなくなってしまうんですね、そこを認めたくないの。そこを認めてしまうと、うちの子は障害があるということになってしまふんだなと感じる親御さんは絶対にいらっしやると思うので、その辺もすごく難しいのだろうなと。うちの子、そうですというレッテルというか、そういうのを受け入れられるようになるには、2歳、3歳を過ぎて小学校へ上がるぐらいかなとも思います。</p>
	大庭委員	<p>私判断で申し訳ないが、1歳半健診でもとにかく早く、やるのとやらないのとでは卒園のときに全然違ってきます。本当に大変、つらいお気持ちは分かりますが、その手当てを早くすることが何よりも一番大事だというのは痛感していますので。</p>
	森委員	<p>私も障害受容に関しては一日でも早いほうがいいと思います。そこ</p>

	事務局	<p>で落ち込もうが何だろが、一度、親としての気持ちが崩れようが、そこから立ち直っていけるので、障害受容は先に延ばすよりは、本当に一日でも早いほうがいいと思います。そのあたりは療育センターも、とてもオブラートに包んだ言い方をされるので、保育園でも大丈夫じゃないかなとか、はっきりとこっちがいいですとか、障害があるので療育センターの単独とかのほうがいいですという言い方はなかなかしてくださらないようになっており、選択は親御さんに任せますという言い方をされてしまいますので、その辺が難しい。それを保育士さんをお願いするのも難しいですね。障害受容のところの、やっぱり1対1でつけなければ駄目だよというのは、保育士さんではなくて、本来は療育センターのドクターのところなのかなと思うのですが、障害受容の難しさも感じつつ、早く親が認められるような寄り添い方も必要かなと思います。</p> <p>委員の皆さん、本当に御意見ありがとうございます。</p> <p>10年前ぐらいですと、まだ保育の申込みのときには、基本的には直接親御さんが区役所の窓口に行く。特設会場を設けて、そこで一斉に受付をするというようなことがありまして、お子さんが小さければ、お子さんを連れて保育所の申込みをされていた状況でした。今は郵送センターで、基本、郵送で送ってもらう形になっていますので、そういう意味では、職員が直接親御さんに、何か配慮が必要なことがありますかという確認の場が今はちょっと取りにくい感じになっているかなと思います。</p> <p>記入漏れがあれば当然お問合せをして、ここについて確認をしたいですというやり取りはもちろんしますが、内容が完璧に書いてあった場合は、それで審査に回っていくので、そういう意味では、一頃、少し手間はかかりましたけれども、直接親御さんから保育に対するニーズとか御家庭の状況を丁寧に聞くという機会が少なくなってきたというのは背景の一つあると思います。</p> <p>それから、先ほど森委員のほうからは、園に入れたくて、本当は正直に伝えたいところだけでも、ちょっと隠して、とにかく入りたいというお話がありました。実際、保育の入所の利用調整をやっているときにそういうケースはあります。去年まではすごく丁寧に障害の状況とか書いてあったのに、次の年に申込みをしていたら、同じ方がそこに全く書いていなかったというケースがありまして、あれ、この人、何かあったはずだけど、と職員がそのとき気づいて、去年の書類を見たら、去年のものはしっかり書いてあって、今年は何も書いていない。それは、やっぱり書いたから入れなかったという思いで、障害特性とかそういったものを親が書かないというのも実際私も現場で見</p>
--	-----	--

	<p>山瀬副部長 事務局</p>	<p>できました。</p> <p>それまで関わっている保健師とかが、保育園を利用したいという親御さんと、そのフォローの仕方も併せてきちんと伝えていかないと、正直、隠せばいいという話でもないと思います。園のほうに受け入れ体制を整えていただく必要があります。保護者もそのあたりを素直に書きづらい面は承知しているのですが、もしそれまでに関わっている保健師とかがいれば、あるいは社会福祉職がいれば、そこが丁寧に、子どもにとってはきちんと情報を書いていただく必要があるよということをしてできるだけ伝えていきたいなと思います。</p> <p>実際、ほぼ郵送で受けている状況もありますし、今の仕組みの中でこういった形できちんと情報を伝えていただいて利用調整ができるかということは、また区役所の現場の声もちゃんと聞きながら、あるいは当事者の方の御意見が把握できている区がありましたら、今の仕組みの中でこういった工夫ができるかということはちょっと考えていきたいと思いますが、現状としては、委員それぞれおっしゃった内容は、現場で確かに起こっているというのはあります。これから考えていきたいと思っています。ありがとうございました。</p> <p>ありがとうございました。皆さんよろしいでしょうか。では、これで本日の議事は終了となりますので、事務局にお戻しいたします。</p> <p>以上をもちまして、第5期横浜市子ども・子育て会議第5回保育・教育部会を終了いたします。どうもありがとうございました。</p>
--	----------------------	--